

燕労災病院の理念

◎働く人々と、地域の人々のために最善の医療を目指します。

病院の基本方針

◎安全で質の高い医療の提供を目指します。

◎勤労者の健康管理を支援します。

◎医療に関する教育・研修を支援します。

◎地域の人々の健康を守り、福祉に寄与します。

目次:

*巻頭言:「勤労者医療の推進に向けて」	1
*平成22年度 TQM小集団活動院内発表会	2
*「職場のメンタルヘルス」～院内研修講習会より～ *難病ボランティア講座開催	3
*編集部より	3
*外来診療科別担当医師表	4

燕ろうさいつうしん

【勤労者医療の推進に向けて】

勤労者医療総合センター事務長 中村 正文

平成22年4月1日に燕労災病院勤労者医療総合センター事務長として赴任し、早1年になろうとしています。昨年3月31日、当地へ赴任のために乗った新幹線の車窓が、トンネルを抜けた瞬間に雪景色に変わったことが昨日のこのように思い出されます。

さて、私が所属する勤労者医療総合センターについて簡単に紹介させていただきます。勤労者医療総合センターは、平成16年4月に労災病院を運営する労働福祉事業団が労働者健康福祉機構として独立行政法人化したのと同時に、政策医療である勤労者医療を推進するために全国の労災病院に設置されました。当院のセンターには、地域医療連携室、勤労者予防医療部、職業性外傷研究センターの3部門があります。

当院では、地域医療支援病院として、近隣の医療機関との連携の向上を図り、地域医療の貢献に努めています。地域医療連携室では、連携の窓口として地域の「かかりつけ医」からの紹介患者の予約受付と、院内各科との連絡調整や医療機関との連絡を行っています。また、医療機器の共同利用の利便性を図るためのインターネットによる検査予約システムに関する業務など、病病・病診連携の円滑化に努めています。

次に、勤労者予防医療部では、近年、勤労者層に増加している高血圧、高脂血症、高血糖、肥満などの「生活習慣病予防」や「過労死予防」に取り組むため、勤労者本人やその家族等に対し、健康診断結果に基づく健康相談及び保健指導（生活指導、栄養指導、運動指導）を行っています。また、勤労者の方々等を対象に、疾病予防、症状改善、増悪防止のための講習会も行っており、毎年、春（6月）と秋（10月）には、4回コース（週1回）にわたり医師・保健師・管理栄養士・理学療法士による生活習慣病予防に関する講義や個別指導を行い、受講者の自助努力をサポートするための「メタボ改善教室」を開催しており、受講者のみなさまから好評を得ています。

最後に、職業外傷研究センターでは、機構の第2期中期目標に定められている「労災疾病等13分野医学研究開発」の研究テーマの一つである「四肢切断、骨折等の職業性外傷」の分野における研究開発、普及事業を行っています。この地域には洋食器など金属加工業の中小企業が多く、手指の切断などの外傷が他地域に比べ多く発生していることから、職業性手指外傷に対する治療や機能回復などについての研究・開発、普及に取り組んでいます。詳しくは、労災疾病等13分野研究普及サイト<<http://www.research12.jp/>>をご覧ください。

以上、簡単に紹介させていただきましたが、これからも、燕労災病院が地域医療の中核的役割を担い、地域医療支援病院としての役割を果たしていくため、当センターの役割を果たしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



大好評のメタボ改善教室

【平成22年度 TQM小集団活動院内発表会が行われました】

TQMとはTotal Quality Managementの略で、簡単に言うと病院をよりよくするための取り組みを言います。

TQM発表会は、よりよくするためにどのような活動をし、どれくらい成果が得られたかを報告する場であり、年に一度行われます。

今年度の発表会では10名の職員が審査員となり、①テーマ選定の妥当性、②手順の妥当性、③成果・効果、④標準化と管理の定着、⑤発表の5項目を持ち点20点で審査し、1位から3位まで表彰がありました。

・1位（最優秀賞）
放射線科「適剤適量！！」

DPCの導入に伴い、心カテ検査に使用する造影剤が請求できなくなったため、造影剤の使用量等を検討しコスト削減に繋げる。

・2位（優秀賞）
3階西病棟「使いやすい機能的な倉庫を目指して」

使用頻度や優先順位を考えた物品の配置を行うことで、業務効率の上昇を目指す。

・3位（優良賞）
2階東病棟「介護支援連携指導料を確実に取ろう」

ケアマネジャーとの間で介護サービスに係る情報共有を積極的に図り、算定件数の増加を目指す。

惜しくも入賞ならず、でも他チームもがんばりました。

・外来／透析室「患者様の笑顔がみられる外来にしよう」

今までの患者対応の行動を振り返り、患者様の目線に立った対策を実践することで、患者様満足度を上げる。

・薬剤部「スッキリ退院！～薬剤管理指導の巻～」

退院時薬剤管理指導について、指導時間の見直しに取り組み、業務の効率化を目指す。

・医事課「外科退院患者におけるDPC情報からのがん登録」
がん拠点病院取得を目指し、DPC情報におけるがん登録の実態を調査することで、今後の当院のがん登録に反映する。

・4階東病棟「ガッチリ！キッチリ！スッキリ！チェックもれなし！！」

患者様入院時に作成する多くのチェックリストを一覧表化することでチェック漏れを防止し、カードックスを節約しコスト削減に繋げる。



真剣な発表



質問に答えます



1位 放射線科の表彰

【職場のメンタルヘルス】～院内研修講習会より～

1月21日に横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長の山本晴義先生をお迎えして「職場のメンタルヘルス」研修を開催しました。

自殺者数の年度推移は13年連続で3万人を超えており、自殺未遂者は年間30～50万人といわれます。自殺者のうち28%が「被雇用者・勤め人」となっており「勤労問題」を自殺の原因の一つとする人は約2500人にのぼります。勤労者のストレス状況やメンタルヘルスと生産性の向上・生きがい、働き甲斐の大切さを考えると、職場のメンタルヘルスがさげられる理由がわかります。管理者は、日ごろから部下の一人ひとりの健康状態を見守り、変化に早く気付くことが第一であることや、相手の話を聴く姿勢など、今日から実践できるケアをご講義くださいました。

また、「自分なりのストレス解消法を持つこと、それも、日常生活の中ですぐできるストレス解消法をできるだけたくさん持つことが大切」と言われるように、ご著書の「ストレス一日決算主義」(NHK出版)の中に紹介されていますが、

- S スポーツ
- T トラベル
- R レクリエーション
- E イーティング
- S シンギング・スピーキング
- S スリーピング・スマイル・酒・SPA

というご自身のユニークなストレス解消法を実践しておられます。

山本先生のエネルギッシュなご講演に燕労災病院が元気になった一日でした。



【難病ボランティア講座を開催】

今年度初めて三条地域振興局の主催で「難病ボランティア講座」が開催されました。当院は、県央地域では唯一神経内科の入院施設があることで協力依頼があり、1名のスタッフが研修にかかわりました。研修は一般の方々を対象にして6回コースで行われました。私達が携わったのは「入院中の生活について」の講義や施設見学実習、介護技術実習でした。神経難病は「筋萎縮性側索硬化症」に代表されるように、呼吸が自力でできなくなる病気で、呼吸器などを使用している方が多く会話はできず、食事もチューブからの栄養がほとんどです。

実習当日、患者さん達は看護師以外の人たちと交流できると張り切っていました。しかし、受講者は一般の方々でしたので、人工呼吸器が装着されていること自体にとまどいがあり、思うように接することが出来なかったようです。今回の研修は初めての経験でしたが、患者さんは社会との接点を持ちたいと思っており、ボランティアの方々の協力が必要不可欠なことを再確認できました。今後も継続してこのような講座が開催されるよう協力していきたいと思えます。

【編集部より】

こぼれ話をひとつ。「職場のメンタルヘルス」研修講師の山本先生、診察室の机には韓国女優チェ・ジウさんの写真が置いてあるそうです。診察の合間に患者さんから「奥様ですか？」と真剣に尋ねられ「はい！」と答えてしまうとか。とてもユニークで楽しい先生のようにです。

さて、今年度も残りわずかになりました。一年間ありがとうございました。4月から、燕労災病院のいろいろな情報や話題をたくさんお届けしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。(記：な)

